

自然談話に現れる「と」「ば」「たら」「なら」

—条件接続用法のあらたまり度—

中島 悦子

1 はじめに

中島（1997）では、自然談話に現れる「と」「ば」「たら」「なら」を対象とし、その中の周用的用法である非条件接続用法（前件と後件との意味関係において条件接続を表さないものをいう）に焦点を絞って調査報告した。

中島（1999刊行予定）は同じく自然談話資料を使用し、中心的用法である条件接続用法における「と」「ば」「たら」「なら」の使い分けと個々の特徴を調査分析した。

本稿は、同じく自然談話「職場における女性の話しことば」（1994）を使用し、条件接続用法における「と」「ば」「たら」「なら」を取り上げ、それらの現れる言語環境をフォーマル場面（会議・打合せ・相談のあらたまり度の高い場面）とインフォーマル場面（休憩時や昼食時の雑談等あらたまり度の低い場面）に設定し、それぞれの場面に出現する頻度及び前件に「です・ます」体が現れるか否かということによって4形式それぞれのあらたまり度を検証する。

条件接続用法とは仮定条件、一般条件、事実的条件をいう。仮定条件とは未実現の事態を仮定し、後件の条件とするもの、一般条件とは前件が起これば必ず後件が起ることという前件と後件との関係が必然的なもの、事実的条件とは前件の既然の事実と後件の既然の事実とを「と」「たら」で結んだものをいう。

表1に「と」「ば」「たら」「なら」の場面別出現実態を示すが、それによると、話しことばの条件接続用法において最も出現数の多い「たら」はインフォーマル場面に多く使用され、「と」もインフォーマル場面の使用が多い。他方、「ば」はフォーマル場面に多く使われる。「なら」はフォーマル・イ

ンフォーマル場面の使用数にあまり差がない。この場面別による出現数は、4形式の中では「たら」が最もあらたまり度が低く、「と」がそれに続いて低い、「ば」は最もあらたまり度が高く、「なら」はあらたまり度が中立的であることを示している。つまり、4形式の中では「ば」が最も丁寧な条件接続形式であるといえる。従って、話しことばにおいて「たら」の出現が多いというのは、一つには「たら」のあらたまり度の低さによるものであること、二つにはそのあらたまり度の高さから書きことばに多く使われる「ば」にとって代わって使われていること、つまり話しことばでは「ば」の領域を「たら」が侵していること等が考えられる。

表1 「と」「ば」「たら」「なら」のフォーマル・インフォーマル場面の出現数

	場面	と	ば	ら(ば)	なら(ば)	計
条件接続	フォ	35	37	46(5)	8(2)	128
	インフォ	60	21	78	6	163
	計	95	58	124(5)	14(2)	291
1. 仮定条件	フォ	7	33	42(5)	8(2)	90
	インフォ	23	17	70	6	116
	計	30	50	112(5)	14(2)	206
2. 一般条件	フォ	28	4	0	0	32
	インフォ	34	4	0	0	38
	計	62	8	0	0	70
3. 事実的条件	フォ	0	0	4	0	4
	インフォ	3	0	8	0	11
	計	3	0	12	0	15

(注:「たら(ば)」「なら(ば)」の総数、およびフォーマルの()内の数は「たらば」「ならば」の数を示す。)

2 仮定条件における「と」「ば」「たら」「なら」の場面別出現実態とあらたまり度

仮定条件においては「たら」の多用(124例中112例)が目立つ。また「なら」も総数14例全てが仮定条件として用いられている。「たら」「なら」の仮定性の強さが注目されるが、「たら」が仮定条件のほかに事実的条件にも

使われているのに比べ、「なら」は仮定条件にのみ用いられている。「ば」も58例中50例が仮定条件に使われている。「と」は95例中30例が仮定条件として、62例が一般条件として用いられており、仮定条件としての使用は一般条件の半数になっている。話しことばの実態は「たら」が最も多く仮定条件に使われていることを示している。

仮定条件の「たら」や「と」はフォーマル場面よりもインフォーマル場面の方に多く出現している。仮定条件の「ば」はインフォーマル場面よりもフォーマル場面の方が多い。「なら」はフォーマル・インフォーマル場面での出現数にあまり差がない。古代語において唯一仮定条件を表していた「ば」は、その古い文語的色彩からあらたまり度が高く、フォーマル場面に多用されるのは理解される。しかし、あらたまり度の中立的な「なら」、あるいはあらたまり度の低い「たら」や「と」は、どのような形態でフォーマルな場面に用いられているのか。第一に「なら」「たら」の形態か、「ならば」「たらば」の形態かといった問題である。第二に「たら」や「と」は「です・ます体」についての形態なのか、「だ体」についての形態なのかといった問題である。まず、「なら」「たら」のまま使われる場合と「ならば」「たらば」の形態で使われる場合を見る。

2.1 「なら」と「ならば」

「ならば」はもといわゆる断定の助動詞「なり」の連体形「なら」に、いわゆる条件の接続助詞「ば」のついたものであろうが、本来は名詞を受けた「ならば」が補文に直接するように変化し、「補文 ならば」の形で一般化したのが中世末期であるといわれる（例えば阪倉1958参照）。「ならば」は近世中期以降は大幅に減少し、代わって「なら」が優勢となる。「なら」の一般化は近世中期以降であった（例えば小林1967、中島1989参照）。いうまでもなく現代語においては「なら」は補文としてあらゆる文をとり、「ならば」にとって代わっている。「なら」「ならば」とも仮定条件にのみ用いられる。

談話資料に出現する「なら」と「ならば」とを比較すると表2-1のようになる。

表2-1 仮定条件における「なら」「ならば」

	なら	ならば
動詞	5 (フォ 2 インフォ 3)	1 (フォ 1)
形容詞	2 (インフォ 2)	
モノ	1 (フォ 1)	
クライノ	1 (フォ 1)	
名詞	3 (フォ 2 インフォ 1)	1 (フォ 1)
計	12 (フォ 6 インフォ 6)	2 (フォ 2)

表2-1にあるように、「ならば」の2例(14%)に対し、「なら」は12例(85%)で、6倍の用例数である。場面別に見ると、「なら」が雑談等のインフォーマル場面に6例、会議・打合せ等のフォーマル場面に6例と半々の割合で使われているのに対して、「ならば」2例は全て打合せのフォーマル場面での使用である。歴史的な変遷を経て中世末期に一般化された「ならば」は、「名詞 ならば」でも「動詞 ならば」でも、現代の話しことばでは古い文語的なニュアンスのためかフォーマルな会話の中に現れやすいといえる。このような「ならば」の出現実態は、国研(1964)の現代雑誌九十種の実態調査における「ならば」がかたい層、地の文に出やすいという指摘とも一致する。

以下具体例に従って、「ならば」と「なら」を検証する。

- 1 でーすからー、あの一、先生のお話ならば、(はい inf(女))あの一、とり、まず前半の部分については(ええ inf(女))、あの一、えーと一、話さない方は下に下りてて、……、やるならば。

[04f・40f・会]

「ならば」は、会議における40代の発話の中に出現している2例だけであるが、「先生のお話ならば」と「お+名詞+ならば」という形態が示すように、先生に敬意を表して丁寧な接頭辞「お」を使っており、丁寧度の高い表現である。また「やるならば」も丁寧な待遇表現を含んだ文中に出現している。つまり、フォーマル・インフォーマルという場面別に見ると、「ならば」

はフォーマルな場面の中に現れやすいし、待遇表現で見ると、丁寧度の高い文に出やすいといえる。丁寧なフォーマル場面に古い形の「ならば」が使われるのは当然であろう。

次に、「なら」がフォーマル場面で使われている例を検討する。

2 で、延びようもんなら、すっ、大変 [04H・50f・会]

3 すごくねー、むかしー、平成2年くらいのなら、わか、あるんでー、それに番号書いてあるんで、どうせ変わらないでしょ、こんな番号。

[10D・40m・相談]

例2の「うもの(ん) なら」は「もし万一そんなことをするなら悪いことになる」という意味を含む。つまり前件が起これば後件が悪い結果になるというマイナス結果条件表現である。この「もの」は、

4 そんなことわかっているもの、いわなくてもいい。

のように、後件はマイナスの価値を表すことが多い。「うもの(ん) なら」もまさにこれである。しかも「うもの なら」は歴史的に遡ると近世に現れてきた表現で、ここでは50代の話者が会議のフォーマルな場面で使っている。

例3「くらいの なら」のように助詞に承接したのも40代の男性が電話相談のフォーマルな場面で使っている。このような「助詞 なら」も歴史的には近世にまで遡ることができる。このような古い形の「なら」は比較的かたい、あらたまった場面に使われる傾向があるようだ。

5 ……、えー、1週間なら1週間の加療を要すみたいな(うん、うん inf(女))程度のしかでないのか、……。 [04M・40f・打]

6 あっ、それなら大丈夫ですよ。 [06A・40f・打電]

用例5、6の名詞やソ系指示詞についた「なら」は「だったら」に置き換えが可能なものであるが、打合せのフォーマル場面では「なら」形式で出現している。「だったら」がインフォーマルな場面に多いという事実から、フォーマル場面に使われている「なら」の方がより丁寧な形式であることが実証される。用例6の「それなら」は仮定を表すというより提題を表す用法というべきものである。仮定を表す「ば」のついた「名詞系 ならば」と異なり、「ば」のつかない「名詞系 なら」は仮定的というより提題的用法に近

づくといえる。

7 そうさいちよう、もしやってくれるんなら、僕の一、あれでもやっ
てもらおうかな。 [06E・60m・会]

8 うーん、ずっとついてるんならつけとくか。 <間50秒>
[14H・20f・打]

9 もしつけんなら違う字にしな。 [15A・30f・雑]

10 仕事があるんならやろうかなと思って。 [02C・20f・雑]

例7、8、9、10の「動詞 んなら」は後件に意向・意志・命令等のモダリティ表現が来るもので、先行談話における相手又は他者の発話を受け、それに基づいたことがらを仮定するという「なら」独自の意味を表すものである。

さて、この「未完了テンス+なら」は双方向性を表す。つまり前件の後に後件が生じてよいし、前件の前に後件が生じてよい。さらにいえば、前件が非動作性述語の場合は前件と後件の関係は同時となる。例7が前件→後件の関係を表すもの、例9が前件←後件の関係を表すもの、例8、10が前件＝後件の関係を表すものである。結局、「る なら」の前件と後件の時間関係は順行、逆行、同時となり、テンスは中立化する。この「る なら」は打合せと雑談に2例ずつ出現しているが、あらたまり度の差は感じられない。

11 ぼろいん、ほら、ぼろくて安いんなら全然いんだけどー。
[02A・20f・雑]

12 こんな寒いなら日本の方があったかいじゃないかと思うくらい。
[02C・20f・雑]

13 でも、あたし国内でカードけっこう使うからねー、もしあれなら、
使いであると思うんだー。 [17A・30f・雑]

14 明日からS席の人には追加公演、今なら、もう最高の席がお取りで
きます。 [01D・40m・雑]

用例11、12の仮定条件を表す「形容詞 なら」は、前件＝後件という時間関係を表す。つまり同時の関係にあるものである。用例13の「名詞系 なら」は「もし」という仮定を強調する副詞との共起からも確かめられるようにやはり仮定条件を表す。これらは全て雑談のインフォーマル場面に出現している。

- 15 そんな人いたらならね。 [02C・20f・雑]
 そう。 [02A・20f・雑]
 ぜったい良かったと思うんだよね。 [02A・20f・雑]

例15の「完了テンス たら」は、前件の後に後件が生ずる、前件→後件という時間関係を表すもので、「たら」と同じ性格のものである。この「たら」は仮定条件を表すというよりむしろ反事実的仮定を表すものである。雑談のインフォーマル場面に出現しているように、「たら」と同様あらたまり度は高くない。

2.2 「たら」と「たらば」

「たらば」というまでもなく、完了の助動詞「たり」の未然形に「ば」のついた形式である。他方、「ば」の脱落した「たら」は「なら」と同じく近世中期以降に一般化した形式であるが、『浮世床』(1813)では「たら」の方が「たらば」の12倍もの比率で用いられ、むしろ「ば」のつく方が例外的で、現代語につらなる様相を示している。また「なら(ば)」と違って「たら(ば)」は序文にはなく全て会話文の中に現れている(中島1990参照)。

さて、談話資料に出現する「たら」と「たらば」(「です・ます体 たら／たらば」を含む)の実態は表2-2のようになる。

表2-2 仮定条件における「たら」「たらば」(含「ましたら」「ましたらば」)

	たら	ましたら	でしたら	(ん)だったら	たらば	ましたらば	だったらば
動詞系	76(7+19 ｲﾝ7+57)	4(7オ)		3(7オ1 ｲﾝ7+2)	2(7オ)	1(7オ)	
形容詞				1(ｲﾝ7+1)			1(7オ)
名詞系			6(7オ)	17(7+7 ｲﾝ7+10)			1(7オ)
計	76(7+19 ｲﾝ7+57)	4(7オ)	6(7オ)	21(7+8 ｲﾝ7+13)	2(7オ)	1(7オ)	2(7オ)
計	107				5		

仮定条件としての「たらば」は僅か5例しかない。その内訳は「動詞基本形 たらば」が2例、「ます形 たらば」1例、「だったらば」2例となって

いる。5例の「たらば」は全て打合せや指導等のフォーマル場面に出現している。

フォーマル場面に出現する「たらば」の用例を挙げると、次のようなものである。

- 16 …、まあ、原稿が入ってある程度形が見えたらば一、あの一、一度営業会議、で説明してくれと、ゆうような話もありますので…

[06A・40f・打]

- 17 もし、そのよう、すいません、じゃわたしのような見方をするのであつたらば、(うん inf(女))まあ、とりあえずは、タイトルを変えれば。

[04L・30f・指導]

- 18 それを守ったうえでだめだつたらば、だから、ちょっと問題になりますけれどね。

[11A・20f・打]

- 19 ここの部分ですね一、A4 (えーよん)の紙にそれがいっぱいに入るぐらいの拡大だつたらば一、もうちょっときれいに見えると思うんですけれども、

[11A・20f・打]

例16「たらば、～話もありますので」、例18「たらば、～問題になりますけれど」、例19「たらば、～と思うんですけれども」と、「たらば」の後件は丁寧な「です・ます体」となっている。「たらば」はその古い形式のためか丁寧度の高い、かたい文体の中に出現し、フォーマルな場面に使われているということが実証されている。

他方、仮定条件としての「たら」は107例と、「たらば」の20倍もの比率を示し、現代語の話しことばでは、むしろ「ば」のつくことの方が例外的といえる。「たら」の内訳を見ると、「動詞基本形 たら」が76例、「ます形 たら」が4例、「です形 たら」が6例、「(ん) だつたら」が21例である。「ます形 たら」「です形 たら」は全てフォーマル場面の出現であるが、これについては後述する。

動詞(補助動詞)につく「たら」は雑談のインフォーマル場面の出現数がフォーマル場面の出現数より3倍も多く、条件接続形式では「たら」が最もあらたまり度が低い、つまり気楽な雑談の場面には「たら」形式が最もふさ

わしい形式であることが示されている。

まず、フォーマル場面に出現する「たら」を検討する。

20 →でも←、あれだっ、あの一、もし着いてなかったら電話★下さると、うん、思いますので。 [19A・40f・打]

21 30カ月近かったら、どうするんですかね、検収は。 [11A・20f・打]

22 で、もし、もしそうじゃなくて、あの一、まだ原稿が汚いなあと思つたらこのプラスワンを押してください。(はい 他者(男))

[07A・40f・相談]

23 ええと一、もう、自分をご報告終わつたらすぐにでも帰りたい感じでしたねえ。

[04E・40f・会]

打合せや会議のフォーマル場面に出現する「たら」は、例20「たら、電話下さると思います」、21の「たら、どうするんですかね」というように後件の文体は丁寧な「です・ます体」である。特に20は「下さる」と尊敬語が使われている。また後件にモダリティ表現がくる「たら」も、22「たら、～てください」、23「たら、～したい感じでしたね」のように丁寧な文体「です・ます体」が来ている。また23は前件に「ご報告」と丁寧な接頭語「ご」が使用されている。特に20、21の前件が非動作性述語についた「たら」は「ば」に置き換えが可能なものである。話しことばではこのような「たら」は「ば」にとって代わって使われていることが実証される。

次に、インフォーマル場面に出現する「たら」を検討する。用例を挙げると次のようなものである。

24 あ、終わつたら代わってくれる↑ [16A・30f・雑]

25 冬になったらね、お財布買う。 [09A・30f・雑]

26 いやーだから、できたらくださいってゆってたから一、(うん 他者(男)) あれ持たせればさ。 [05A・40f・雑]

27 〈笑い〉ほんとね一、日が変わつたらすぐってゆう感じ。

[10A・40f・雑]

28 も、なんかあつたら、絶対みんな奥さんのかたもつよね一。(間)

[10A・40f・雑]

例24の「たら」は後件が「てくれる↑」のように相手の意向を尋ねる表現、25の「たら」は後件が「する」のように意志の表明、26の「たら」は後件が「ください」のように相手への命令・依頼表現が来ている。3例とも後件の文体はぞんざいな「だ体」である。このような後件にモダリティ表現が許容される「たら」は「と」や「ば」に置き換えると不自然なものである。しかし、用例27、28の「たら」も後件の文体が「だ体」であるが、27は「と」に、28は「ば」に置き換え可能なものである。このような「たら」は雑談のインフォーマル場面では「と」や「ば」の代わりをつとめていられると考えられる。話しことばでは「たら」が「と」や「ば」の二つの領域を大いに侵しているのである。

このように見てくると、後件が丁寧な文体の「です・ます体」や敬語の使われる文中に現れる「たら」は、フォーマルな場面に使われ、後件がぞんざいな文体の「だ体」に現れる「たら」はインフォーマルな場面に使われるというように、ていねい度の低い「たら」も後件の文体の違いによってインフォーマルとフォーマルの場面別の使い分けをしていることが分かる。

以上、「たら」と「たらば」の使い分けについては、フォーマル場面においては「たらば」「たら」形式で後件が丁寧な「です・ます体」とともに使われ、インフォーマル場面では「たら」形式でぞんざいな「だ体」とともに使われるということが実証される。

2.3 「でしたら」「ましたら」「ましたらば」

「と」「ば」「たら」「なら」の前件に「です・ます体」が出現するか否かという問題を場面と関連して検証する。「ますれば」「ませば」は近世には例を見るが（例えば『捷解新語』重刊本）、現代語では使われない。「ますなら」もやはり近世にその例があるが（例えば『浮世床』）、現代ではあまり使われない形態である。「ましたら」「ますと」「でしたら」「ですと」は現代でもごく普通に使われる形態である。当談話資料においても「ましたら」「でしたら」「ましたらば」の形態は出現するが、「ますれば」「ませば」「ま

すなら」の形態は皆無である。

この章では「です・ます体 たら／たらば」、即ち「でしたら」「ましたら」「ましたらば」の実態を検証する。それらの出現数を「たら」と比較して表2-3に示しておく。

表2-3 仮定条件における「でしたら」「ましたら」「ましたらば」の出現数

	フォーマル	インフォーマル	計
ましたら	4 (電話3)		4
ましたらば	1 (電話1)		1
でしたら	6 (打5、会1)		6
たら	19	57	76
たらば	4		4
だったら	8	13	21
計	42	70	112

「ましたら」は打合せに4例、そのうち電話での打合せに3例、「ば」のついた「ましたらば」は電話での打合せに1例、「でしたら」は打合せに5例、会議に1例とあるように、「です・ます体 たら／たらば」は全てフォーマル場面に出現している。「たらば」という古い形も全てフォーマル場面の出現である。他方「たら」「だったら」はその大多数がインフォーマル場面に出現している。つまり、仮定条件を表す「たら」は、フォーマル場面では「たらば」「ましたらば」「ましたら」「でしたら」という形態で、インフォーマル場面では「たら」「だったら」という形態で使い分けられているのである。

まず、「ましたらば」「ましたら」の用例を挙げると、次のようなものである。

29 で、あの一、ちょっといろいろ一、やっぱり一、また一海外店の人と話しましたらば、出荷形態について、なんかいろいろリクエストが来てるんですよ。 [11A・20f・打電]

30 それで、なんか[名字]先生とかと、ちょっとお話ししてましたら、(うーん、うーん inf(女))あのいろんな施設なんかに入るときに

はなんか、判定委員会とか（あります inf(女)）、そういうの聞いてやるそうですけども、…… [04M・40f・打]

31 あのそうしましたら、あの、お戻りになりましたら、お電話いただけるようにお伝えいただけますか。 [05A・40f・打電]

32 ……もしーあの、お見かけになりましたら、口頭でもちょっとゆっただけけると、電話をいただけるとありがたいのですがあの、会社のほうにずーっと今日はおりますので。 [06A・40f・打電]

電話での打合せで使われている「ましたらば」と「ましたら」を比較すると、29が非尊敬語「話します」に「たらば」がついた形なのに対して、30は謙譲語（非主語尊敬）「お話ししています」に「たら」がついた形で現れている。31も尊敬語（主語尊敬）「お戻りになります」に、32も尊敬語（主語尊敬）「お見かけになります」にそれぞれ「たら」が承接したものである。「ば」のついた古い形の「たらば」より「たら」の方があらたまり度が低いところから、同じ「ます体」につく場合も「たら」の場合は、尊敬語の「ます体」に「たら」がついた形となっている。つまり、「ますならば」と「ますなら」の使い分けは、形態的に前者が非尊敬語の「ます体」に「たらば」がついた形で、後者は尊敬語の「ます体」に「たら」がついた形で対応している。

次に、「でしたら」の用例を挙げる。「でしたらば」は出現していない。

33 総説の、ま、スケルトン、これについては、あの一、コピーをしてこなかったんですが、ここで議論されるようでしたら、あ、ありますか↑ [06A・40f・打]

34 あの一、ここで議論されるようでしたらコピーを依頼してきます。 [06A・40f・打]

35 口頭で、★もしあれでしたら、コピーします。 [06A・40f・打]

36 ……、あの一、お父さんのお名前と連絡先ぐらひでしたら、ここでは、わかりますが、もしかしたら###必要ですか↑

[14H・20f・打]

37 そうじゃない、都合の悪い人は〈笑いながら〉、じゃ空いてる時間

にきて、見せてくださいってゆうことでしたら、わたしたちのほうでこれ、常に持ってますので、お見せできると思いますので。

[07A・40f・会]

推量の助動詞「ようです」に「たら」が後接する「ようでしたら」は例33、34と2例ある。また、35の「あれでしたら」、36の「ぐらいましたら」、37の「ことでしたら」というような、ア系指示詞や助詞「ぐらい」、形式名詞「こと」に「でしたら」がついた形態は全て「なら」に置き換えが可能なものである。つまり、話しことばでは「たら」は「なら」の領域までも侵しているといえる。さらにいえば、話しことばのフォーマル場面では「でしたら」の形態で「なら」にとって代わっていることが実証される。

2.4 「ですと」「ますと」「と」

三尾砂(1958)によると、古い教科書からの統計(書きことば)では「と」が「です体」形の用言につく率は26%もあるのに対し、諸戯曲からの統計(話しことば)ではわずかに7.3%しかないという。

自然談話では「と」が「です・ます体」に後接する率はさらに少なく例外的となっている。「ですと」が打合せに1例、40代の男性に、「ますと」が会議に1例、やはり40代の女性に使われているだけである。「ですと」「ますと」という丁寧体につく「と」は、「でしたら」「ましたら」と同様、あらたまり度が最も高い形式であるため、フォーマル場面に例外的に出現しているだけである。つまり、現在の自然な話しことばでは、丁寧さの表現としては、「ですと」「ますと」という形式ではあまり使われていないということである。それはまた、かなり丁寧な「です・ます体」や敬語表現の中でも「と」は基本形についた形で用いられるということである。

ただし、仮定条件では基本形につく「と」はそのほとんどがインフォーマル場面で使われており、フォーマル場面での使用は少ない。

表 2-4 仮定条件における「ですと」「ますと」「と」の出現実態

	フォーマル	インフォーマル	計
ですと	1		1
ますと	1		1
基本形と	5	23	28
計	7	23	30

まず、フォーマル場面に出現する「ですと」「ますと」の用例を挙げる。

38 だから [名字] ですと 5000部にもっていけとかゆうようなこれから
いいですが〈笑い・複〉

[名字] でしたらそういったことは、ありえないと思いますので。

[06A・40f・打]

39 ……やっぱり、あの、ある程度、文字を見ていただいたことを考え
ますと、(ええ inf(女))あの一、文字の初校を出した段階に写真
をそろえるといったふうな形でもまあ、追いつきますけどもね。

[03E・40m・会]

38の「ですと」は後件の「です・ます体」の文体とともに使われている。
40代の女性話者は「名詞 ですと」も「名詞 でしたら」もフォーマル場面で
同じように使っており、両者の使い分けはないと考えられる。

39の「ますと」もあらたまった会議で、後件が丁寧な「です・ます体」の
文中で使われている。

次に、フォーマル場面に出現する基本形につく「と」を検証する。

40 窓口がいっぱいになっちゃうと、先生も戸惑うんです。

[06H・不明・打]

41 選択かも途中でやめた場合は一、あれ一、1時間たとえば来なか
ったりすると一、★やっぱ、遅刻でしょう↑ [09Q・30f・会]

42 やっぱりさつき100選んだけど、なんかその複雑なね↑ (ええ 他
者(男))、その一選択とか、位置指定で100番を選んだとか (ええ
他者(男))、そういうことにすると、これが起こってくるって
いうこともあるんですよね↑ [18A・40f・相談]

用例40、41、42の「と」は全て後件が「です・ます体」の文中で使われているものである。「と」はフォーマル場面では丁寧な文体の中で使われ、ぞんざいな「だ体」の中では使われていない。

インフォーマル場面で出現する「と」の例を挙げる。

43 だからその時うなずいたらー、[名前] ちゃん、おへその歌を歌わなーい↑、って [名字] くにゆわせると、[名字] くのゆうこときくのよね。 [08A・50f・雑]

44 →うーん←、けっこうやっぱこっちの冬場はー、あの天気悪いと、(ね 他者 (女)) 長袖じゃないと寒いよね。 [02A・20f・雑]

45 じゃ、指定席とると、(うん 他者 (男)) 笑われちゃうんですね。 [10H・m・雑]

用例43、44の「と」はぞんざいな「だ体」の中で使われており、43では「と」と「たら」が共存している。50代の女性話者はインフォーマルな場面で同一発話中に「と」「たら」を使っているのである。45では「と」が丁寧な「です体」の中で使われている。インフォーマルな場面で使われる「と」は丁寧な文体の中にもぞんざいな文体の中にも現れている。

2.5 仮定条件の「ば」のフォーマル・インフォーマル場面の出現実態

自然談話に出現する「ば」はその大多数が仮定条件である。仮定条件の「ば」はインフォーマル場面の17例に対し、フォーマル場面は33例と、2倍の出現数である。4形式の中では最もフォーマル場面に出現する率が高い。つまり、話しことばでも「ば」が4形式中最もあらたまり度の高い、丁寧な形式であるといえる。

フォーマル場面に出現する「ば」の例を挙げる。

46 だから、その、そうすると、じゃあ、そのお医者さんの証明は(うーん inf(女))もう、たとえば、お願いすれば書いてくれるのか…… [04M・40f・打]

47 で、えーと、まあ、可能であればね、いっしょに、出していただきたいと思うんですが。 [03A・30f・会]

- 48 ま、逆にあの、写真をそろえることによって、文字原稿の初稿つてのが滞るようであれば、とりあえず写真のほうのあたりを決めていただければ、とりあえず文字の原稿だけいただいて、文字を先に進めてくってな形をてまえどもでは通常考えますけれども。

[03A・30f・会]

- 49 デザイナーさんのかた入稿立ち合っていただければ、その時点で、その、カラーの問題点等(とう)、あれば、その時うけたまわって、製版に反映させることは可能ですけれど。

[03D・40m・会]

上例はいずれも丁寧な「です・ます体」の文中に用いられている「ば」である。しかも例46の「お願いすれば」、用例48、49の「ていただければ」というように謙譲語(非主語尊敬)につく「ば」の形で現れている。また、47、48、49の「であれば」は「なら」に置き換えが可能なものであるが、会議などのフォーマル場面ではこのようなかたい「である体」についた「ば」を使うようである。こうしてフォーマル場面に使用される「ば」は敬語についた形や「である体」についた形で使われ、非常に丁寧な表現となっている。

他方、インフォーマル場面の「ば」は次のようなものである。

- 50 聞かないけど、見てなきや聞かないんだよ。 [15D・20f・雑]

- 51 5時出発だから、5時にこなけりゃ置いてくよってゆわれてる。

[16A・30f・雑]

- 52 だから、これをうまく使えば一、(うん inf(女))使いではあるけど一、これやんなかったらほんとにばす。〈言いよどみ〉

[17K・30f・雑]

用例50、51の「見てなきや」「こなけりゃ」は「見てなければ」「こなければ」の縮約形である。ぞんざいなインフォーマル場面では「ば」は拗音の縮約形として出現している。また、52は「ば」と「たら」が共存している例であるが、インフォーマル場面ではあらたまり度の低い「たら」が「ば」にとって代わって用いられていることが分かる。

3 一般条件における「と」「ば」の場面別出現実態とあらたまり度

一般条件では70例中「と」が62例、「ば」が8例と、その大部分が「と」形式で使われ、「たら」と「なら」の使用はない。そこで、「と」「ば」についてそのあらたまり度を検証する。

3.1 一般条件の「と」のフォーマル・インフォーマル場面の出現実態

一般条件の「と」62例中、フォーマル場面の出現数は28例、インフォーマル場面の出現数は34例とややインフォーマル場面の出現数のほうが多い。

53 でないと、権利になると、最後は争いがありうる★わけですよ。ね。

[04M・40f・打]

54 あの、ただ普通に行ってやると、やっぱりどうしても割高になっちゃってなにかサービスとかなかしてくれるので、知り合いがいるところってゆうふうにして今まで、決めました。 [07A・40f・会]

55 で、これをリータンしちゃうとお、今まで入っているものが全部なくなっちゃうんです。 [18A・40f・相談]

56 いちおうねー、あるんだけど、見てれると食べなくなっちゃうの。

[02C・20f・雑]

57 ただキーパーがそのまま入れる、相手ゴールに入れると5点。

[14I・20m・雑]

58 この手順がずれると、(うん inf(女))あの、次の段階で★混乱するの#####。 [08I・30m・雑]

用例53～55がフォーマル場面に出現する「と」、56～58がインフォーマル場面に出現する「と」である。丁寧な「です・ます体」の文中で使われる「と」はフォーマル場面に、「だ体」の文中で使用される「と」はインフォーマル場面に使われるというような使い分けが見られる。

3.2 一般条件の「ば」のフォーマル・インフォーマル場面の出現実態

一般条件の「ば」8例中、フォーマル・インフォーマル場面の出現率はど

ちらも4例と同率であるが、「ば」それ自身が4形式の中ではあらたまり度の高い形式であることは既に検証済みである。国研(1964)の現代雑誌九十種の実態調査における「ば」の一般条件の出現数は、仮定条件や既定条件のそれに比して最多の用例数を示しているが、自然談話においては「ば」の一般条件の出現数は非常に少ない。話しことばにおいて一般条件を表す場合は「ば」が「と」にとって代わられたことが明らかになっている。あらたまり度の高い、古い形の「ば」は話しことばでは衰退の傾向にあるといえる。ここでは用例を挙げるにとどめる。

59 →うちで←やれば安いのについていおうと★思ったんですよ。〈笑い〉

[05A・40f・打]

60 と、マスターに、印刷されて、試し刷りが一出ますから、(はい他者(男))で、その試し刷りを見て、いいなと思ったら、このスタートを押せばこの40枚が印刷されます。 [07A・40f・相談]

61 話せばなががい話に★なります。〈笑い・複〉 [09A・30f・雑]

62 あ、それは、あれでしょ、の、その期間に乗れば、★5000。

[17A・30f・雑]

4 事実的条件における「と」「たら」の場面別出現実態とあらたまり度

4.1 事実的条件の「と」のフォーマル・インフォーマル場面の出現実態

事実的条件とは国研(1964)の過去の既定条件に当たるが、その国研(1964)の現代雑誌九十種の調査では、過去の既定条件は「と」が圧倒的に多く、「たら」や「ば」は少ないとある。

自然談話の調査ではこの事実的条件は15例と非常に少ないが、そのうち「と」はわずかに3例だけであるのに、「たら」は12例と4倍の用例数である。この事実は自然な話しことばにおいて事実的条件を表す場合には、あらたまり度の低い「たら」が「と」にとって代わり、「と」の領域をどんどん侵していつていることを示すものであり、「たら」の話しことば的性格が一層顕著になっていることがうかがわれる。

事実的条件の「と」は全てインフォーマル場面に出現しているが、用例を挙げておく。

63 でも、福岡の日本語学校行くとねえ、もう一、そんなうち、裏とかゆうだけでなく、おもてだけでも女の人強かったですよ。

[17A・30f・雑]

64 ……ね、だけど、縦だと切れてんの、(んー 他者(男)) うしろの男の人の顔とが。

[05A・40f・雑]

65 教室が、はじ、あの一授業がはじまると目が細くなってるの。

[08I・30m・雑]

4.2 事実的条件の「たら」のフォーマル・インフォーマル場面の出現実態

話しことばの「たら」は、事実的条件では「と」の領域を侵し、あらたまり度が低い形式であるにもかかわらず、フォーマル場面にも出現している。ただし、インフォーマル場面のほうが2倍の出現数である。フォーマル・インフォーマル場面の出現例を挙げる。

66 [名字] 議員さん、でもねー、こないだ10時半ぐらいに来るよなんて一ゆって、来たら1時半だったから。〈笑い〉 [10A・40f・打]

67 いやー、朝、はやかったよー、8時半つつたら、全部いたからねえ。 [10B・40m・打]

68 →呼びに←行たらもう出た。 [10B・40m・打]

69 で次の日会社行たら、はりきって仕事してたよ。 [13D・20f・雑]

70 こうやって顔見たらねー、3人しかいなかったから、(うん 他者(女)) [名字] 次長と [名字] 部長と [名字] 次長しかいなくて、(なんだ 他者(女)) で、へつとか見たら、みんな下見てんのよ。

[13B・20f・雑]

用例66～68のようにフォーマル場面に出現している「たら」も、69、70のようにインフォーマル場面に出現している「たら」も、全てぞんざいな「だ

体」の文中で使われている。話しことばでは、「だ体」の文中で使われている「たら」もフォーマルな場面に進出してきたことが知られる。

5 おわりに

先学の指摘どおり（例えば三尾砂1958）、本調査の自然な話しことばの条件接続用法においても「たら」の多用と、「ば」の少用という結果が得られている。話しことばでは「たら」が「ば」にとって代わって用いられているのである。

4形式そろって用いられている仮定条件用法においてそれぞれのあらたまり度を見ると、その現れる環境は、「たら」「と」がインフォーマル場面に多く、「ば」がフォーマル場面に多い、「なら」はフォーマル・インフォーマル場面での出現数にあまり差がないという結果となっている。つまり、「ば」が最もあらたまり度が高く、「たら」が最もあらたまり度が低い、「と」もそれに続いて低く、「なら」は中立であるということがいえる。「たら」は、フォーマルな場面に使われる場合は「たらば」「ましたら」「でしたら」の形態で使われるか、あるいは「です・ます体」の文や敬語とともに使われるが、インフォーマルな場面に使われる場合は「だ」体の文中で使われるというように、文体によっても使い分けがされていることがわかる。特に「たら」のインフォーマル場面での出現率の高さは、「ば」や「なら」で言い換えが可能な仮定条件表現でも、「たら」形式が使用されていることによる。言い換えれば、話しことばの仮定条件では「たら」は「ば」や「なら」の領域を侵していつているといえる。「なら」の出現数は非常に少なく、フォーマル場面では「ならば」「うもの(ん) なら」という古い形態で使われているが、その数は少ない。「と」はフォーマル場面で「ですと」「ますと」の形態で使われるものは僅かで、丁寧な「です・ます体」の文中でも基本形についた形で使われている。「ば」はインフォーマル場面よりフォーマル場面のほうが出現数が多いという事実から、4形式の中では一番丁寧な条件接続形式であるが、インフォーマル場面では「たら」にとって代わられている。

一般条件ではその大部分が「と」形式で使われ、「ば」は少数、「たら」「なら」はゼロである。一般条件では「と」が「ば」に代わって用いられているといえる。「と」のフォーマル・インフォーマル場面での出現数を比べるとややインフォーマル場面の方が多い。

事実的条件の用例数は少なく、「たら」と「と」しか出現していない。しかも「たら」のほうが「と」よりも4倍の出現数で、インフォーマル場面のほうに多いという事実は、事実的条件では「たら」が「と」にとって代わって用いられていることを示している。

以上から、話しことばでは、仮定条件においては「たら」が「ば」や「なら」の領域を、事実的条件では「と」の領域を侵していつていること、また一般条件では「と」が「ば」の領域を侵していつていること等が明らかになっている。

参考文献

- 現代日本語研究会1994『職場における女性の話しことば—自然談話録音資料に基づいて—』財団法人東京女性財団1993年度助成研究報告書
編1997『女性のことば・職場編』ひつじ書房
- 国立国語研究所 1964『現代雑誌九十種の用語用字第三分冊分析』
- 小林賢次 1967「条件表現形式としての「なら」「たら」の由来」『国文学言語と文芸』54号
- 阪倉篤義 1958「条件表現の変遷」『文章と表現』角川書店
- 真田信治 1988「話しことばの実態」『話しことばのコミュニケーション』凡人社
- 寺村秀夫 1981『日本語の文法』(下) 国立国語研究所
- 中島悦子 1989『『平家物語』の「ならば」—覚一本と天草本を比較して—』『会誌』第8号 日本女子大学大学院の会
- 1990『『平家物語』における「たらば」と「たならば」』『東海大学留学生教育センター紀要』第10号

- 1990 『浮世床』の条件表現－「ナラバ」と「ナラ」、「タラバ」と「タラ」－『会誌』9号 日本女子大学大学院の会
- 1997 「自然談話に現れる「と」「ば」「たら」「なら」－非条件接続用法を中心に－『ことば』18号 現代日本語研究会
- 1999刊行予定「自然談話に現れる「と」「ば」「たら」「なら」－条件接続用法を中心に－『国文学言語と文芸』116号 国文学言語と文芸の会

松下大三郎 1928『改撰標準日本文法』紀元社。訂正版(1930)中文館。復刊(1970)勉誠社。

益岡隆志・田窪行則 1989『基礎日本語文法』くろしお出版

益岡隆志 1997『複文』くろしお出版

前田直子 1991b「条件文分類の一考察」『日本語学科年報』13 東京外国語大学

1995 「バ、ト、タラ、ナラ－仮定条件を表す形式－」『日本語類義表現の文法』(下) くろしお出版

三尾砂 1958『話しことばの文法』法政大学出版局。

渡辺実 1974『国語構文論』塙書房